

LAGUNA（汽水域研究）の発刊にあたって

汽水域研究センター
センター長 徳岡 隆夫



「LAGUNA」第1号を皆様にお届けできることを大変嬉しく思います。LAGUNAとはLAGOONに通じるイタリア語・スペイン語ですが、この言葉を、本センターの看板にさせていただくことにしました。「LAGUNA」は汽水域に関することならどんなことでも扱う総合的な研究誌として、年1回以上の発刊を目指しています。学の内外、国の内外を問わず、皆様の積極的な御投稿をお待ちしております。

さて、本誌の発行元である島根大学汽水域研究センターは平成4年度に学内共同利用の教育研究施設として設立されました。本センターの前身は昭和59年にスタートした「山陰地域研究総合センター」で、伝統文化・農山村・森林資源および自然環境の4部門での学際的・総合的な研究を行ってきました。その実績が認められて、省令施設としての本センターが実現したわけです。教授・助教授・助手各1名、それにセンター長という小所帯ですが、現在81名の学内共同研究員、38名の客員研究員に登録していただいております。諸設備もほぼ整い、2年目にしようやく本誌の発刊にまでたどりついた次第です。

汽水域研究センターの研究テーマとしては、

1. 汽水域の自然環境と海面変動に関する研究
2. 汽水域の生物多様性と環境変化に関する研究
3. 汽水域の地理、文化、社会の変化と形成に関する研究

をとりあげています。もちろんこれらに限るわけではありませんが、汽水域の形成を歴史的に明らかにし、その現状を分析し、その上で汽水域における地球温暖化による環境変化の予測と対策、汽水域の調和のとれた環境の整備、効率的な活用といったところまで進められたら良いと考えております。

本センターの地域的な研究課題としては、日本を代表する汽水湖である中海・宍道湖という恵まれた自然が目の前にありますので、まず両湖とその集水域の自然をとりあげることになります。過去から現在に至る自然史を復元し、湖の囲りで営まれてきた人類の生活や文化が総合的に復元されたとき、はじめて未来への展望が切り開かれるのではないのでしょうか。グローバルな課題としては、汽水域は世界中の河口域のどこにでもありますので、それらの地域の自然環境を中心とした汽水域研究の比較研究を行うことになります。汽水域を標榜した研究所は世界のどこにもないと思いますので、ここはひとつ世界のセンターを目指して頑張りたいと思います。

汽水域は海面のわずかな昇降によって大きく所を変え、環境を変化させます。地球温暖化による海面上昇が起こるとすると、まっさきに影響が現れるのは汽水域です。また、汽水域は人類が古来からさまざまに利用し、恩恵を受けてきた場所ですが、いまや人類の活動によってその豊かな場所が急激に減りつつあり、また多くの場所が危機にひんしています。これからの地球を考えると、汽水域の環境保全は大変に重要です。そしてそれはグローバルに考えているだけでは解決できないのは明かです。“Think globally, act locally.”とよくいわれるように、中海・宍道湖をケーススタディの場としてこの問題を具体的に解決して行く必要があります。規模の小さいセンターではどこまでできるか自ずと限界がありますが、理想を高くかかげて、これからやっていきたいと考えております。汽水域研究センターとLAGUNAへの御支援をどうか宜しくお願い致します。

編集委員

高安克己・國井秀伸・竹広文明

Editorial Board

Katsumi Takayasu, Hidenobu Kunii & Fumiaki Takehiro